

# 金属積層造形 参入

## 新報国マテリアル インバー合金活用



▲インバー合金で積層した成形品

**【川越】新報国マテリアルはインバー合金（低熱膨張合金）で3Dプリンターなど金属積層造形（AM）分野に参入する。積層造形で使用できるインバー合金の最適な条件を確立した。試作品の成形などを経て、早ければ**

**年内にも実用化する。**複雑形状への対応や部品点数削減による軽量化が期待できることから需要があると判断。他素材からの置き換えを狙う。

積層造形を手がける東金属産業（静岡県沼津市）の協力を得て進めめる。新報国マテリアルの材料ノウハウと東金属の造形の知見を組み合わせる。すでに半導体製造装置メーカーに試作品を

インバー合金は温度変化による膨張、縮小を抑えた素材で、高い安定性が特徴。精度が求められる半導体・液晶製造装置や精密測定機などで採用されているほか、温度変化の大きい航空・宇宙分野などでも需要が期待されている。新報国マテリアルは鍛鋼材で提供してきた。

同社はインバー合金のトップメーカー。用途や使用する温度帯に合わせ豊富な製品群を持つ。積層造形の事業化に向け、2021年12月に兵庫県立大学特

提供した。

任教授の柳谷彰彦氏を顧間に招いた。社内に研究開発、営業、素形材など各部門の人材で構成するワーキンググループを設置、顧客の開発案件に重点的に取り組む体制を敷いた。

成瀬正社長は「ものすごいスピードで実用化されてくる」と語る。